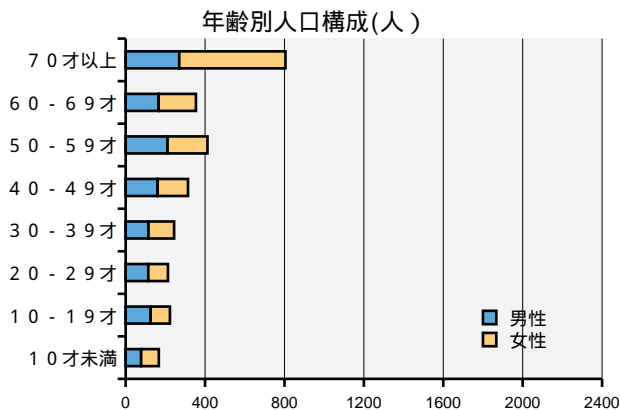


位置図



1 居住者の現況

人口(人)	2,732
世帯数(世帯)	1,129
65歳以上人口(人)	991
65歳以上世帯(世帯)	452
5歳未満人口(人)	73



2 建物に関する指標

構造別建物棟数(棟)

木造建物	1,508
非木造建物	60
合計	1,569

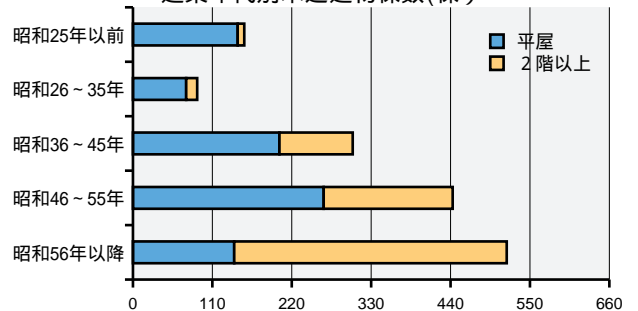
建築年代別木造建物棟数(棟)

建築年	平屋	2階以上
昭和56年以降	140	378
昭和46年～昭和55年	264	179
昭和36年～昭和45年	203	101
昭和26年～昭和35年	74	15
昭和25年以前	145	9

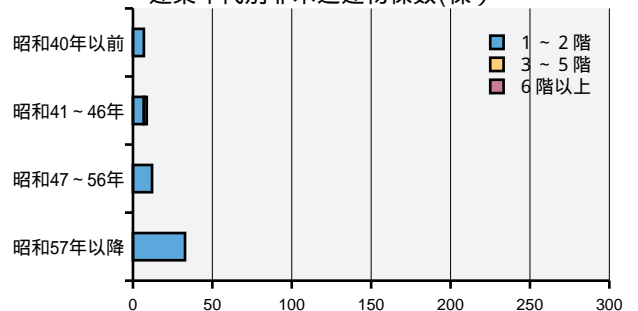
建築年代別非木造建物棟数(棟)

建築年	1～2階	3～5階	6階以上
昭和57年以降	33	0	0
昭和47年～昭和56年	12	0	0
昭和41年～昭和46年	7	2	0
昭和40年以前	7	0	0

建築年代別木造建物棟数(棟)



建築年代別非木造建物棟数(棟)



自然的・社会的基本指標

秋田市南部沿岸部に位置し、日本海に面している。中央部に大森山があり、公園・緑地となっている。海岸線に沿って国道7号が通っている。集落は、国道7号沿いに集中している。人口構成では高齢者層ほど比率が高くなっており、特に65歳以上は全体の36%を占める。建築物全体的な棟数は少ないが、そのほとんどが木造建築物である。建築物全体の65%は昭和56年以前の建築である。

3 急傾斜地等の現況

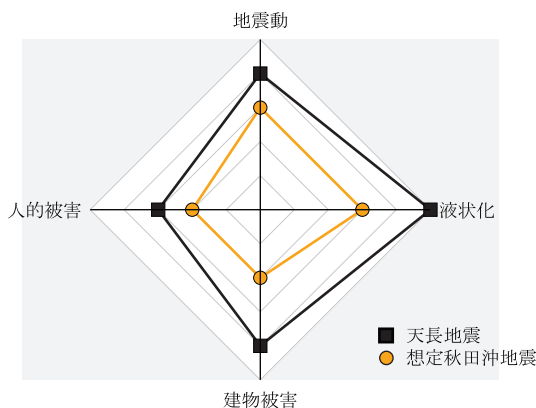
指定種別(箇所数)	箇所名
急傾斜地崩壊危険箇所(1)	宮田沢
なだれ危険箇所(0)	該当箇所なし
地すべり危険箇所(0)	該当箇所なし
土石流危険渓流(12)	大森山公園沢、中村沢、サンタロ沢、コガ沢、宮田沢沢他

4 地震被害に関する指標(地震被害想定結果)

■ 被害想定結果一覧表

	天長地震	想定秋田沖地震
平均震度	6弱	5強
液状化危険度	ランク5	ランク3
木造建物大破数(棟)	126	12
非木造建物大破数(棟)	2	0
死者数(人)	11	1

被害想定結果レーダーチャート



レーダーチャートの見方

このレーダーチャートは、地震被害想定調査の主要な結果に基づいて、各項目毎に最も危険度が低い場合を1、最も危険度が高い場合を5として点数化してグラフに表したものです。グラフのひし形の面積が広いほうが総合的な地域の危険度が高いことを示しています。

地震時危険要素

天長地震を想定した場合、平均震度は6弱となる。内陸の低地部では、液状化する可能性がかなり高い。120棟程度の建物大破被害が発生し、死者も10人発生するものと想定される。

想定秋田沖地震では、平均震度は5強となる。液状化する可能性は、天長地震を想定した場合と同様、内陸の低地部でかなり高い。建物の大破被害は10棟程度発生する。死者が発生する可能性がある。

津波に対する危険要素

日本海に面した沿岸部の海浜では、最大3m以上の浸水となる可能性がある。

5 防火・防災施設に関する指標

■ 消防関連施設

消火栓数(箇所)	30
防火水槽(箇所)	11
消防車台数(台)	9
消防ポンプ数(台)	2
消防団員数(人)	49

■ 避難所/避難場所

避難所/避難場所	屋内/屋外	収容人員(人)
大森山老人とこどもの家	屋内	250
大森山公園	屋外	145,500

■ 救急・防災関連施設

種別	名称/箇所数
管轄消防署	秋田消防署
管轄警察署	秋田中央警察署
病院数	1
最寄の救急告示病院	市立秋田総合病院
自主防災組織数	3

■ 学区内の主要な公共施設

施設名	住所
浜田地区コミュニティセンター	浜田字自在山88-6

防災上の課題と対策

浜田小学校区では、国道7号の西側で、南北に伸びる帯状の砂丘状の地域に建物が集中している。人口構成は、65歳以上が36%程度を占めるなど、高齢者の割合が高い。また、65歳以上の人で構成される世帯も全世帯の40%程度と非常に高い。学区の北端並びに南端には高齢者福祉施設が多数位置していることも含め、高齢者の中には、災害時の避難など自力では対処できない人もいるものと考えられる。地域住民の相互の協力が重要な役割を果たす可能性があるとともに、災害時要援護者の避難行動支援並びに救護・搬送に十分な配慮が必要である。学区の中央部に土石流危険渓流範囲に含まれる集落があることから、複合的な災害状況となる可能性もある。災害時に住民自身が状況を的確に判断を行うことができるよう、防災に関する正しい知識を周知するとともに、集落単位で防災訓練などを通じ地域の危険要素について確認し、的確な防災活動ができるよう支援することが必要である。